

田村病院ニュース



発行日 平成29年3月15日
田村病院ニュース 第122号
発行責任者 木下定子
編集責任者 浦田雅弘

3月も中旬、奈良のお水取りも終わりこれからは日に日に暖かくなり、屋外にも出やすくなってきます。そして春といえば気になるのが桜の開花情報で、和歌山では3月29日、満開は4月8日の予想となっています。

また一方では、新入学や新社会人としての準備に追われる時期でもあります。暖かくなってきたとはいえ一日の寒暖差の激しいこの時期、体調管理には十分に気をつけてそれぞれの春を満喫して下さい。

洞 観

洞観(どうかん)、聴きなれない言葉と思いますが、意味は本質をつかみ、先を見通すといったところでしょうか。

仕事ができる人、できない人と良く聞きますがその違いはどこにあるのでしょうか。これはあるビジネスの分野から引用していますが、この違いは「視点・意識の向け方の差」にあるのではないのでしょうか。そしてこの「視点・意識の向け方の差」を考えるヒントになるのは「現在」と「現状維持」の違いを考えることと書いていました。

今月はそれを踏まえてリハビリテーション小島部長よりお話しがありました。

「私がこの病院に入職して13年になります。その時心理士1名と私とで初めてリハビリテーション部を立ち上げてもらいました。その後本館が新築され、アウトリーチを請負い、グループホームができと病院も随分と変わってきました。

これから病院は人口減、診療報酬減、ベッド数削減等厳しい時代が来るでしょう、いや来ます。しかしそんなときでも、これからを担う若い職員が生き生きと働いて行ける病院を目指し、その筋道をつけて行けたらと思います。」といった内容のお話しでした。

小島部長のお話は先を見通し、そうなった時にも対応できるようにと深い意味を持ったお話しでした。「現状維持」という視点をもっていれば、今は大丈夫なことも5年10年先には大きな問題となることを発見出来るかもしれません。

「まだ大丈夫」という考え方は決してせず、現状維持した結果でもたらされる未来に対して視点を向けることですね。



今回は少し「家族教室」のご案内をさせていただきます。

当院では、毎月第四土曜日に「家族教室」を開催しています。時間は 14 時～16 時と短い間ですが、家庭の中での「お困りごと」を家族さんたちで相談し合ったり、また専門スタッフからの病気についての説明をさせてもらいたいと“ご家族の方も元気で”という思いで行っています。くわしくは病院スタッフまでお気軽にお声をかけ下さい。(見学だけでも OK ですよ～)

こちら地域連携室

だんだんと気温も上がり、暖かくなってきました。もう 3 月ですね。3 月 3 日の「ひな祭り」で、久しぶりに、ちらし寿司を食べました。日頃、ほとんど食べることがないので、「行事に合わせた食べ物って大事だな。」と感じました。

新しい季節は、すぐそこまできていますね。

突撃！！地域医療連携室！！



さて、このシリーズも、これが最終回となります。今回は、地域医療連携室を突撃取材しました！！

Q：地域医療連携室の特色を教えてください。

A：「ご本人やご家族、院内スタッフだけでなく、外部の医療機関とのやりとりも行っています。」

Q：地域医療連携室の自慢は??

A：「多職種（看護師・事務員・PSW）で構成されていることです。」

Q：地域医療連携室を食べ物に例えると？

「色々な美味しい具材が入っているけれども、ソースやマヨネーズもかけてこそ、出来上がる・・・お好み焼きです。」

地域医療連携室さん、ありがとうございました。



地域医療連室

＝編集後記＝

もうすぐお花見の時期ですね。でもお花見いつからあるの？そこでちょっと調べてみると奈良時代にその原型ができ、桜ではなく梅の花だったようです。そして平安時代に桜の花にかわって、今の宴会のようなお花見が初めて行われたのが安土桃山時代だそうです。

古より親しまれている桜、その花の下で一献。いいですね～！

＝うらた＝